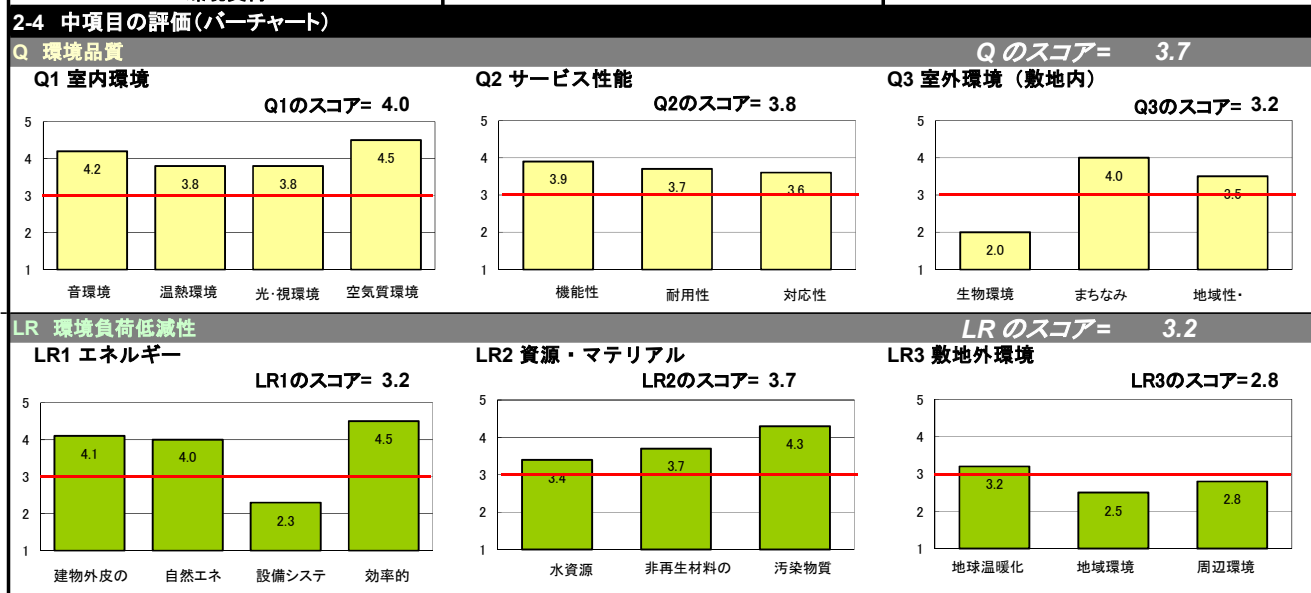
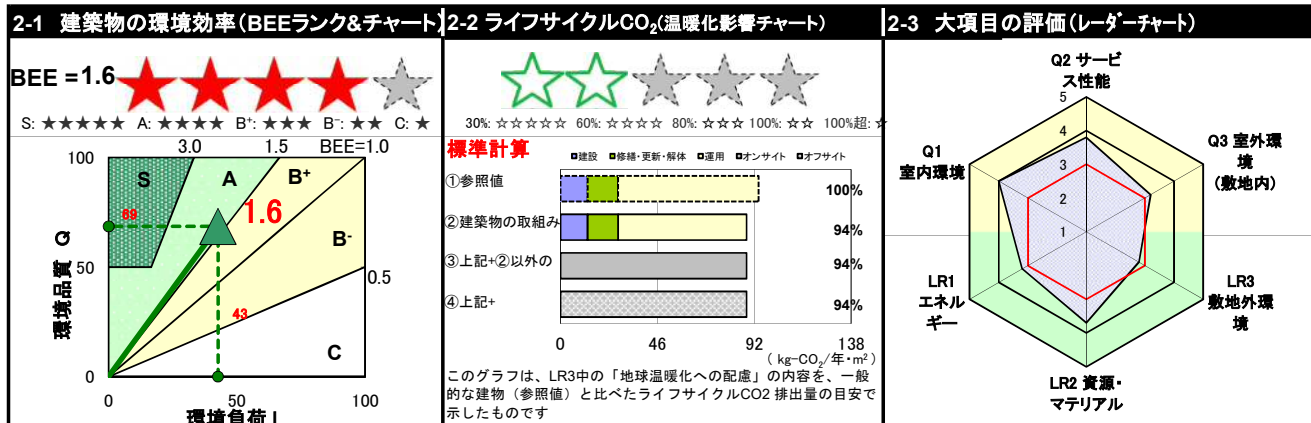


CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境総合性能評価システムマニュアル2016 (使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0))

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	MWP	階数	地上9階 地下1階
建設地	名古屋市中区美三丁目2101番地、2102番地、2103番地	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	730 人
地域区分	6地域	年間使用時間	4,000 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、飲食店、集会所、等	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2023年1月 竣工	評価の実施日	2023年2月7日
敷地面積	1,340 m ²	作成者	
建築面積	909 m ²	確認日	2023年2月7日
延床面積	5,707 m ²	確認者	



3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
・高断熱及び日射遮蔽性を高めることで、省エネルギー化と内外の環境制御に貢献する施設を目指している。また、オフィスフロアではABWの考えを取り入れ、働く人たちがシーンに応じて常に最適な空間、光、音環境を選択し、心身ともに健康的でパフォーマンスを発揮可能な執務空間づくりを行う。		
Q1 室内環境 ・南面に反透過アルミバンディングパネルを設け、日射抑止や柔らかな光環境を創出。 ・上下階、南北に風の抜ける風の道を設け、自然換気を誘発。 ・パブリックにも配慮した外気供給量一人当たり30m³/hを確保。	Q2 サービス性能 ・フル・フレキシブルを前提とした多彩で十分な広さのワーク・レイスを整備。 ・ABWのレイアウトにあった内装とサーカディアン照明、環境音を導入。 ・直天井とルーバー天井により、開放的な執務環境を創出。 ・建築基準法に定められた25%増の耐震性を確保。	Q3 室外環境(敷地内) ・劇場、テナント、オフィスが一体化した地域や社会に開かれたエントランス空間。 ・屋上に芝生広場を確保。 ・車道に沿って高木を含む植栽を計画。自動灌水設備を設置。
LR1 エネルギー ・壁面ガラス型の太陽光発電により、エネルギーを創出。 ・LED照明・人感センサーにより、エネルギーを削減。 ・排気熱を有効活用する全熱交換器による省エネルギーの実現。 ・高効率空調機採用による省エネルギーの実現。	LR2 資源・マテリアル ・スケルトンインフィルを徹底した再生可能な施設。	LR3 敷地外環境 ・南面は低層部では極力窓開口をなくし、高層階では窓の外にアルミバンディングパネルを設け、公害対策を実施。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

MWP

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.1
LR1	エネルギー	3.3	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.2	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				2.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.090114021	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009011402	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.04505701	
3. 循環型社会				3.6
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.7	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.1



2. 自然共生

評価点 = 2.3



3. 循環型社会

評価点 = 3.6



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。